

幕末のコレラ禍を紹介

静岡商議所と
徳川みらい学会
鈴木教授(奈良女子大)講演

徳川時代の歴史的意義を研究、発信する「徳川みらい学会」と静岡商工会議所は27日、当時の感染症の対応を題材にした講演会を静岡市葵区の市民文化会館で開いた。奈良女子大の鈴木則子教授(島田市出身)が「幕末のコレラ禍と人々のくらし」をテーマにリモート講演した。

鈴木教授は駿河国富士郡大宮町(現富士宮市)の枡屋弥兵衛による日記「袖日記」から、1858年のコレラ流行についての記述を紹介した。米国船を感染



リモート講演する鈴木教授
＝静岡市葵区の市民文化会館

源に全国に広がったと感や人々の混乱が記され、沿岸部から正体不明の急性の病気が迫ってきた。病人が発生した家につてくることへの緊張への差別や流行地域と

の往来禁止などの動きもみられたと説明した。

新型コロナウイルスについて「疫病が心や日常生活のあり方を変える」と実感した。歴史研究の成果を積極的に発信し、みんなで新しい共生社会を考える機会を持てれば」と述べた。